

【82】淀橋という橋名の盛衰

かつて東京に「淀橋」（よどばし）という地名がありました。もともとは現在の新宿駅西方で青梅街道（おうめかいどう）が神田川を渡る橋の名前が起源です。

江戸期にこの地に遊んだ徳川三代将軍 家光が名付けたという話もあり、古い橋名のように、地域の地名に出世してゆき、明治の初めには「淀橋町」ができ、昭和7年（1932）に「淀橋区」が生まれました。淀橋区は、今の西新宿から新宿駅周辺を含む地域ですが、明治32年（1899）に完成した東京市の近代水道の浄水場たる「淀橋浄水場」の名が広がり、淀橋の名はだんだん有名になっていったのです。

しかし、敗戦後の昭和22年（1947）にそれまで35区もあった東京都の区が現行の23区に削減されたとき、淀橋区は新しく出来た新宿区の一部となりました。

さらに、昭和40年代に淀橋浄水場は廃止されて跡地は開発され、超高層ビル街へと変貌しました。そして都心の有楽町から都庁がそっくり移転してきて”新都心”となり、地名も新しく「西新宿」と名付けられました。

こうして、地名としての淀橋は消滅し、神田川の長さ20mほどの短い橋（巾は6車線の車道をもち広い）に400年続く名をкаろうじて伝えています。そういえば「ヨドバシカメラ」というのがありましたね。